



学校だより

# みどりの

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和4年2月1日

## 運が運を呼び寄せる

校長 遠藤 昌司

3学期の始業と新型コロナウイルスの感染拡大が重なってしまい、落ち着かない毎日が続いていますが、感染のリスクは緑野小学校にも確実に迫ってきています。子ども達の学校生活においても様々な制約が出てきていますが、学校でも対策を徹底させていきますので、ご家庭でのご協力も引き続きよろしくお願いたします。

一月の学校では、恒例の書初め大会をはじめとして、凧揚げやコマ回しなどに取り組んでいる子ども達の姿を見ることができました。給食でもお雑煮が出るなど、日本のお正月の雰囲気にも様々な形で触れることができました。

感染に気を配りながら過ごす中、気が付けば令和4年も、早ひと月が過ぎました。新しい年となり、皆さんには何か良いことがありましたでしょうか。

少し前のことになりますが、先輩教員の方が退職を迎えた際、こんな挨拶をされていました。「高齢の親に『お前がこうして教員という大変な仕事を無事に勤め上げられたのは、運が良かったからだ』と言われるくらい、自分は恵まれていました。」というようなお話でした。謙遜もあったのですが、仲良くしてくださっていた方だったため、日頃のちょっとおっちょこちょいな様子も知っていたこともあり、失礼ながらクスクスと笑ってしまいました。

ただ、なぜかその先輩教員の言葉は印象に残りました。そして、折々に自分自身を振り返ると、「この仕事、ちょうどいい具合に資料が見つかったから、なんとか仕上げる事ができた」「この役割に携わることができたのは、偶然、別の担当をしていたことがきっかけになっていたからだ」「この人に助けてもらっているのは、以前にかかわりがあったからだ」などなど、まさに「運が良かった」と思えることがたくさんあり、実は自分もその先輩教員と同じように、自分の能力以上に、運が味方してくれたからこそ、色々なことを切り抜けてきていたのことに気付きました。

そんな思い出に重なるような記事を、最近、目にしました。それは「運は『運がいい』と言う人のところに集まってくる。」という内容でした。良いことがあって「運がいい」と思うことだけではなく、困難に出くわしても「これくらいで済んだから、運が良かった」と思える人がたくさんいるそうです。もちろん一つの考え方ですし、運を上げていくことに執着し過ぎてしまうのは注意が必要となるでしょうが、心の持ちかたひとつを変えるだけであれば簡単にできることかと思えます。

良い心がけを知ることができたので、「人事を尽くす」ことも改めて意識しながら、運がたくさん集まってくる緑野小学校にしていきたいと思えます。